

男女共同参画に関する市民意識調査

〔報 告 書〕

平成17年12月

薩摩川内市

I. 市民意識調査の実施概要

1. 調査概要と回収状況

(1) 調査の目的

薩摩川内市における男女共同参画に関する市民の意識を調査し、今後の本市における男女共同参画社会の実現のため、各種施策の参考資料とする。

(2) 調査項目

- ① 女性の社会活動への参画に関する意識について
- ② 家庭観等に関する意識について
- ③ 男女の地位の平等について
- ④ 男女共同参画社会の形成に関する意識について
- ⑤ ドメスティック・バイオレンスについて

(3) 調査対象

薩摩川内市在住の20代から70代以上の男女各100名の計1,200名を無作為に抽出した。

(4) 調査方法

郵送配布，郵送回収

(5) 調査期間

平成17年8月15日（月）～平成17年9月9日（木）

(6) 回収状況

年 代	女 性		男 性		合 計	
	回 答 数	構 成 比	回 答 数	構 成 比	回 答 数	構 成 比
20歳代	26	7.3%	15	4.2%	41	11.5%
30歳代	36	10.1%	13	3.6%	49	13.7%
40歳代	34	9.5%	17	4.8%	51	14.3%
50歳代	33	9.2%	25	7.0%	58	16.2%
60歳代	48	13.4%	39	10.9%	87	24.4%
70歳代以上	30	8.4%	33	9.2%	63	17.6%
無回答	4	1.1%	4	1.1%	8	2.2%
合計	211	59.1%	146	40.9%	357	

② 回収率

女性：35.2%

男性：24.3%

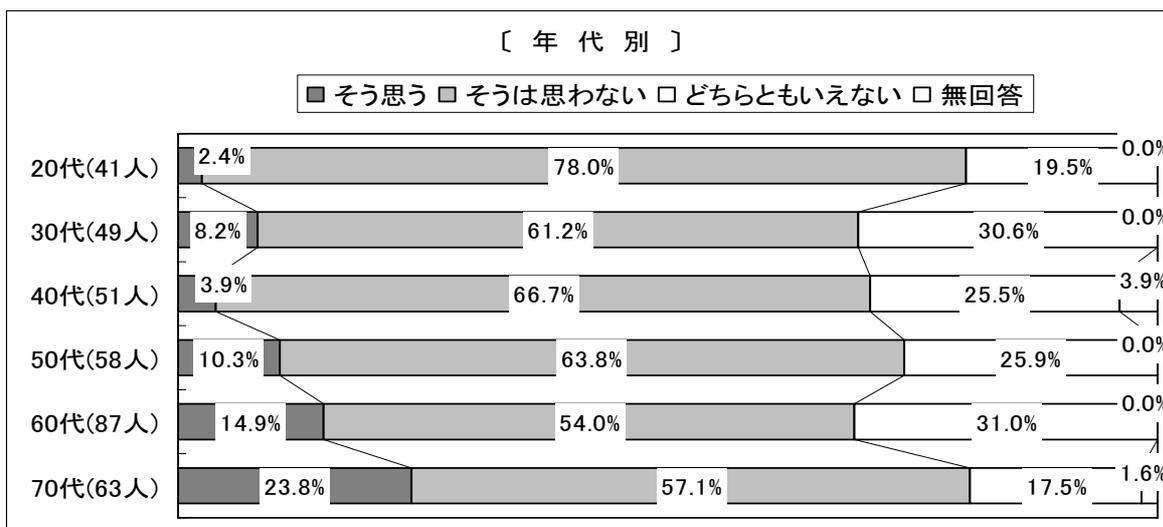
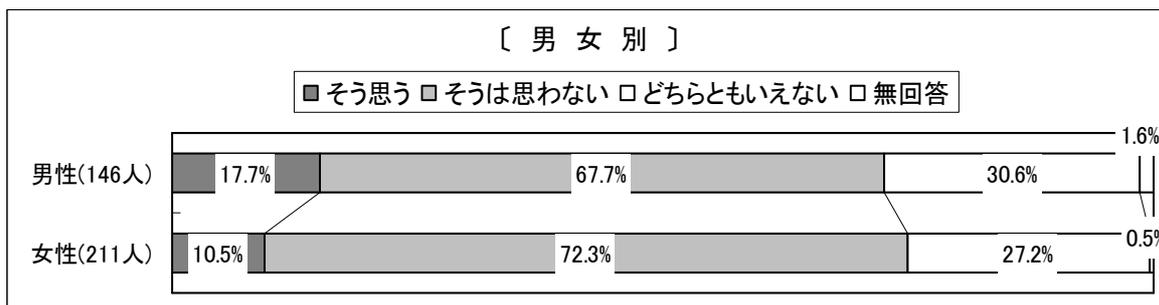
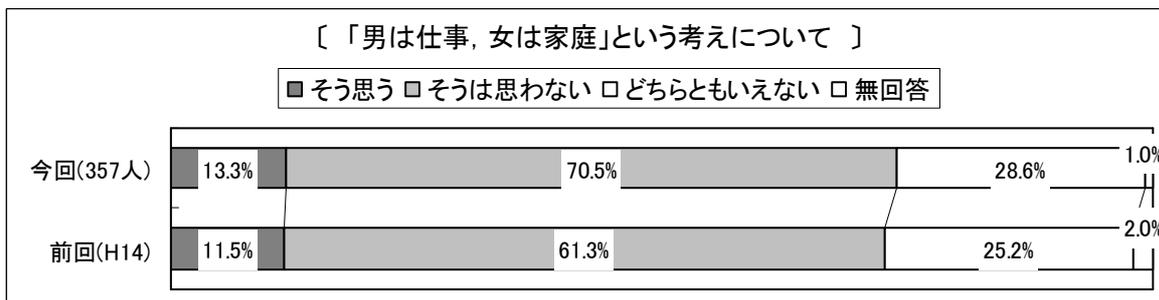
全体：29.8%

Ⅱ. 市民意識調査の結果分析

1. 『女性の社会活動への参画に関する意識について』

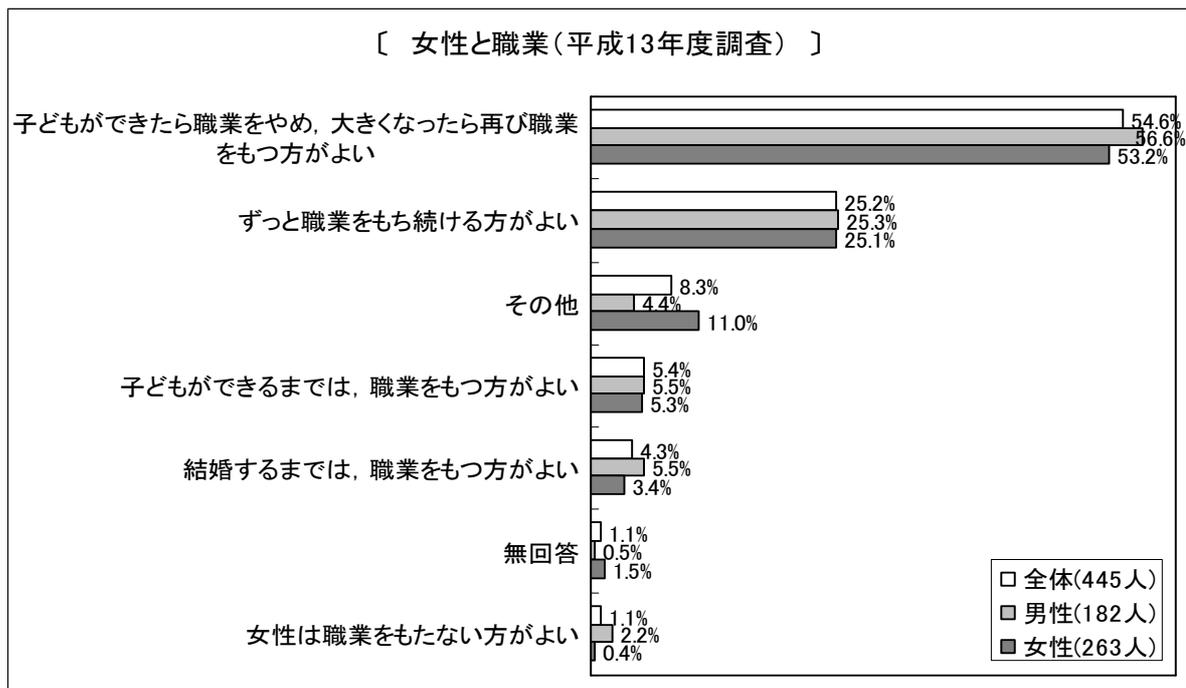
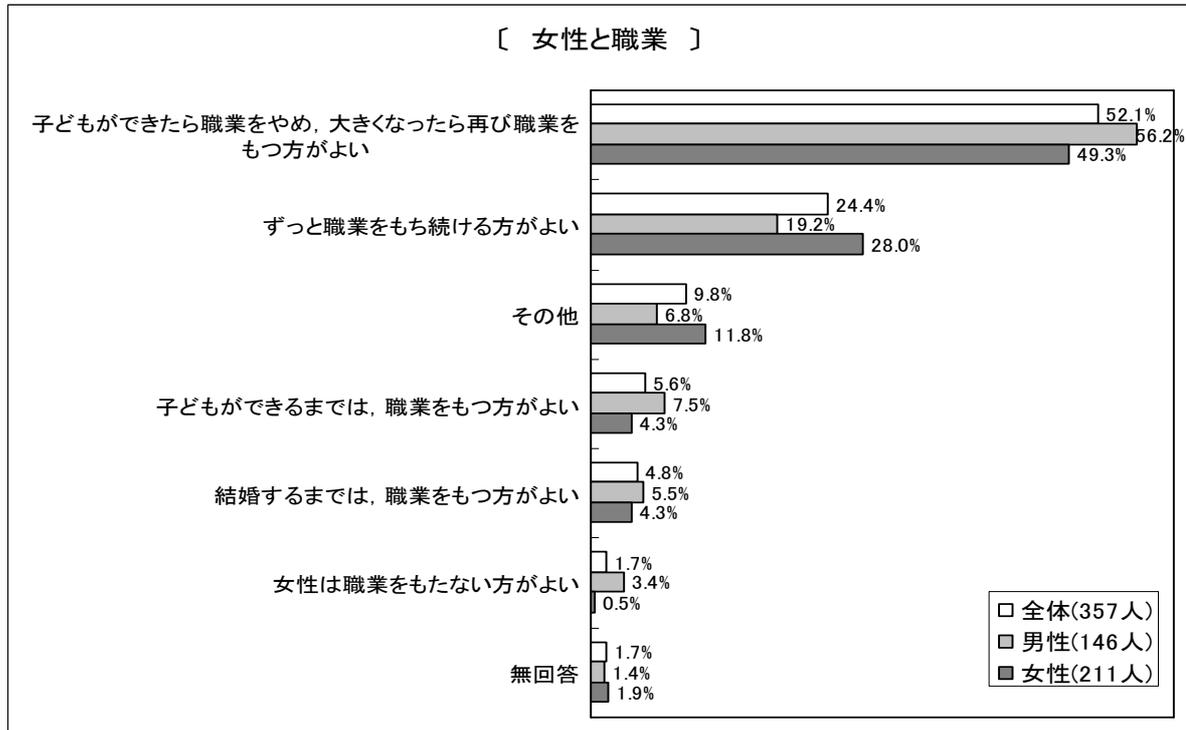
問1 「男は仕事，女は家庭」という考え方がありますが，あなたはこの考え方についてどう思われますか。

〔傾向〕 前回と比較すると，「そうは思わない」としたものが10%近く増加し，女性の社会活動への参画に関する意識が高まってきている。これを年代別に見ると30代が30.6%，40代が25.5%と，いわゆる子育て世代で高い数値が示された。



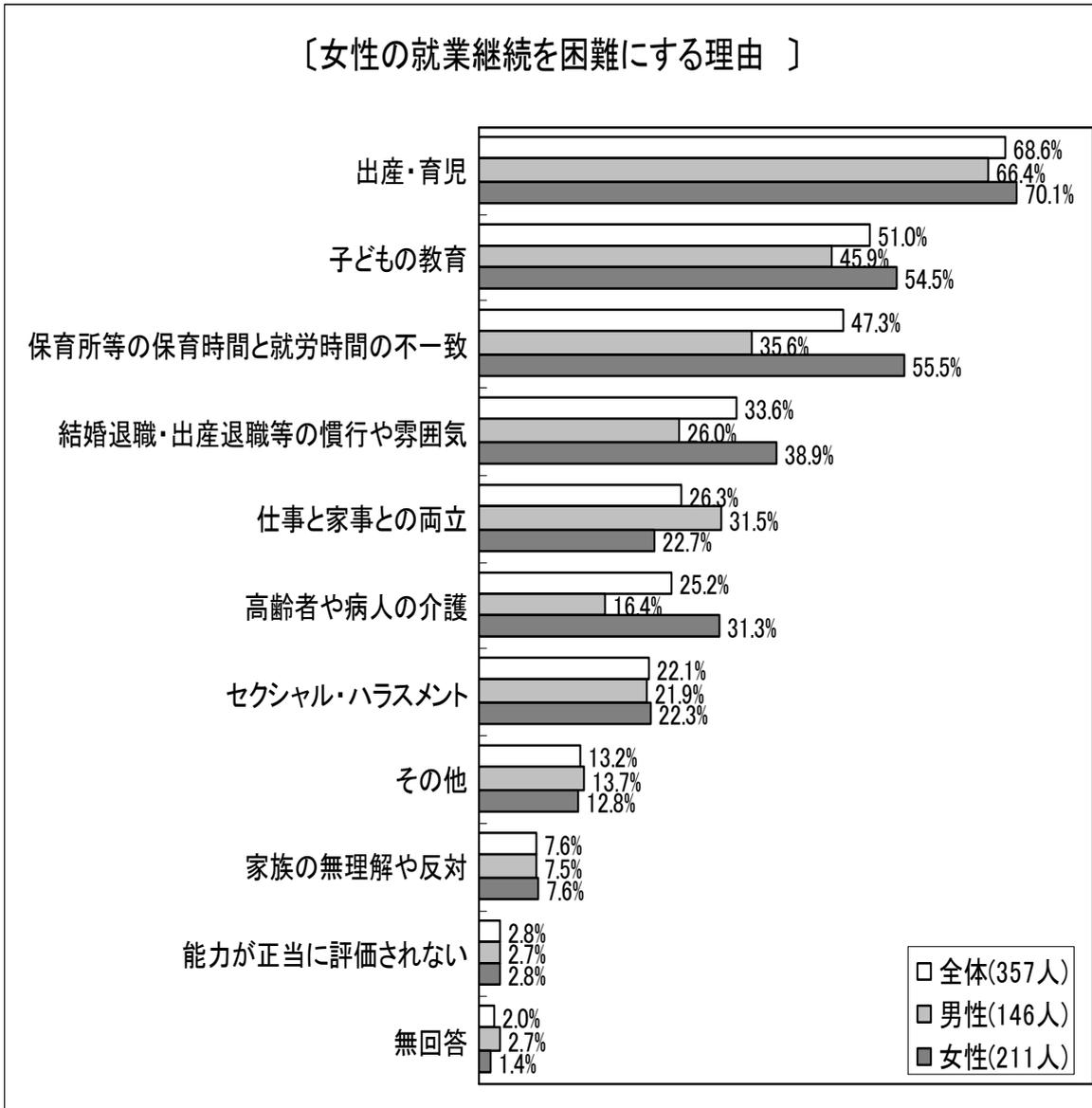
問2 女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えになりますか。

〔傾向〕 「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が男女ともに半数くらいいる。また、質問項目が若干違うが前回調査と単純に比較した場合でも、女性が職業を持つことと、育児とは密接な関係があることがうかがえる。



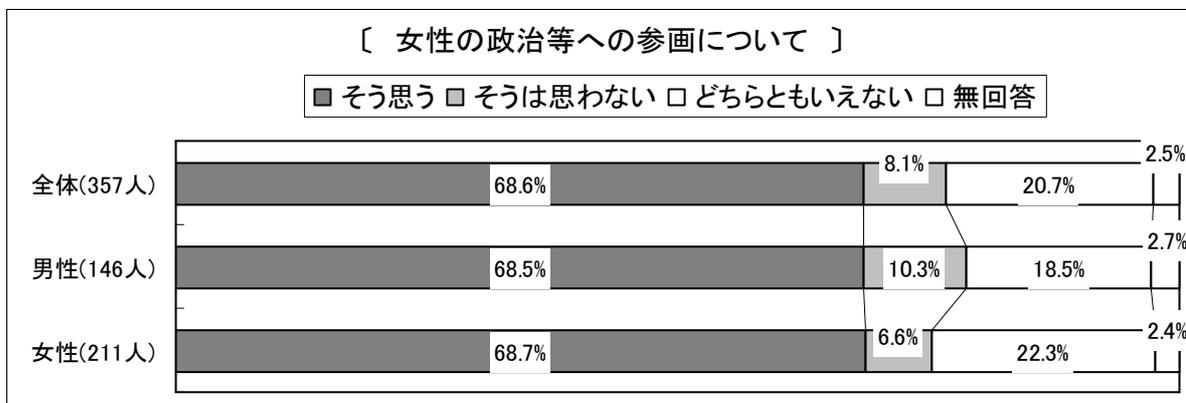
問3 女性が、職業をもち働き続けることを、困難にしたり障害になるとお考えになることはどのようなことでしょうか。（複数選択）

〔傾向〕 男女ともに、その理由として「出産・育児」「子どもの教育」をあげており、前回「仕事と家事との両立」「高齢者や病人の介護」が上位の順を占めていたが、介護保険制度の導入等による社会制度の変化が影響していると思われる。



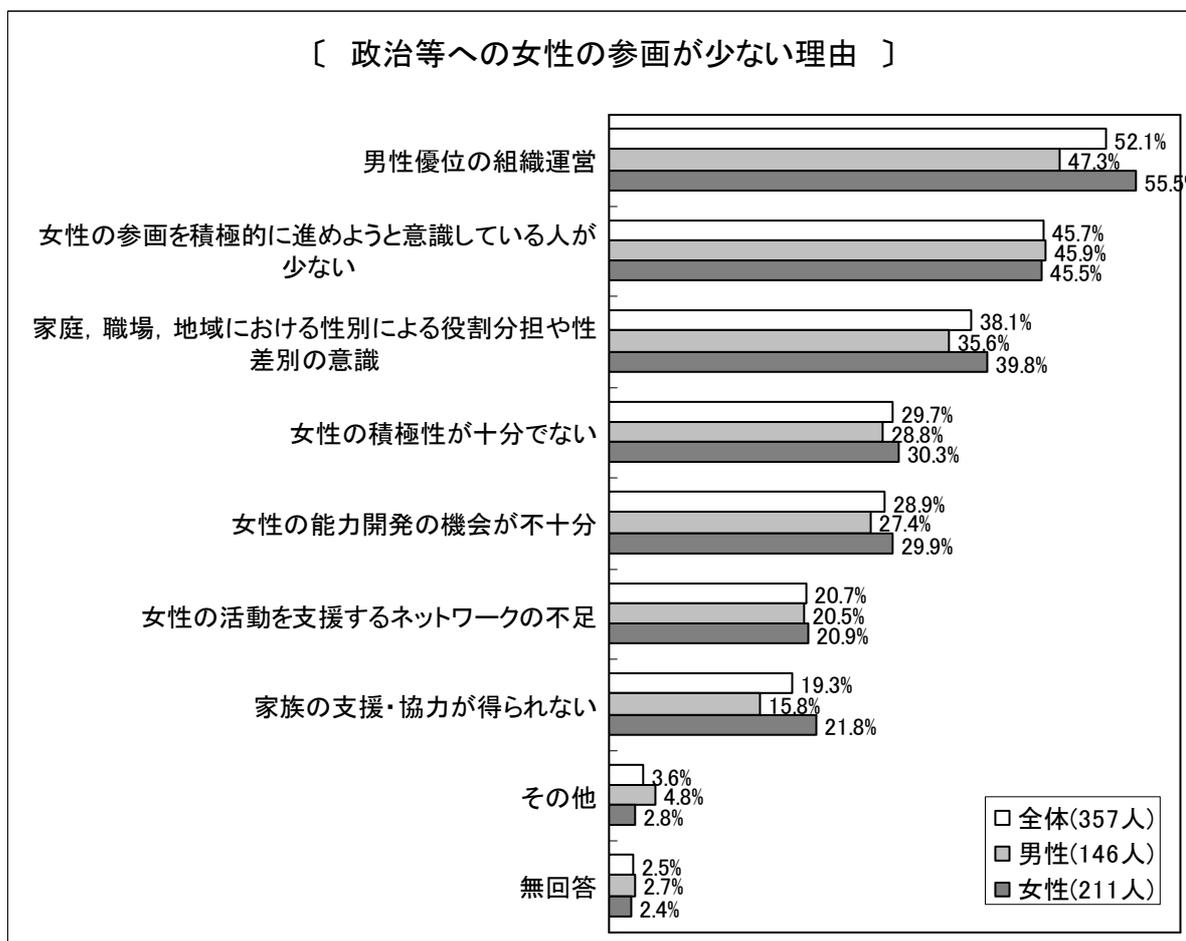
問4 あなたは、女性が国会議員や県議会議員、市議会議員などの公職に就いて、政策などの立案や決定に女性の意見をもっと反映するようにした方がよいと思われませんか。

〔傾向〕 男女ともに「そう思う」とする考え方が最も多く、68.6%という高い割合を示した。



問5 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思われませんか。（複数選択）

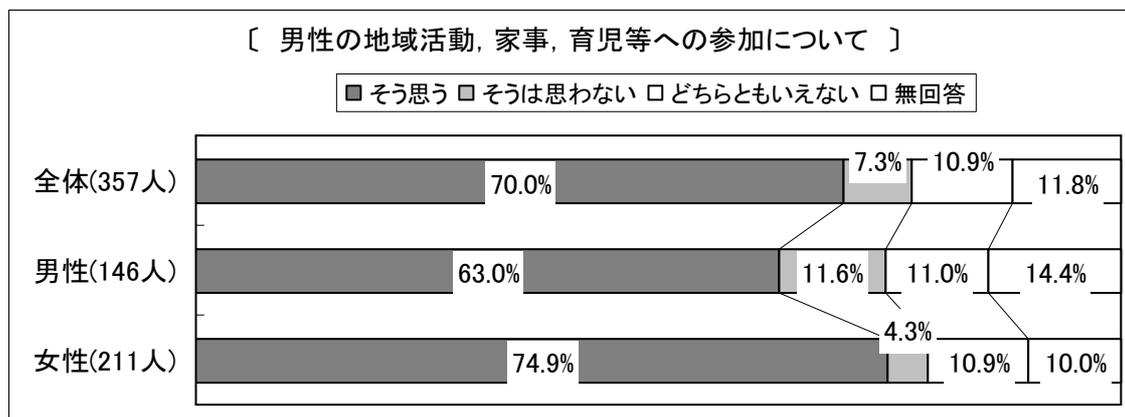
〔傾向〕 「男性優位の組織運営」が男女とも50%ほどいる。また、30%を越えたものが4項目あり、政治や行政の場において、ジェンダーに敏感な視点が求められている。



2. 『家庭観等に関する意識について』

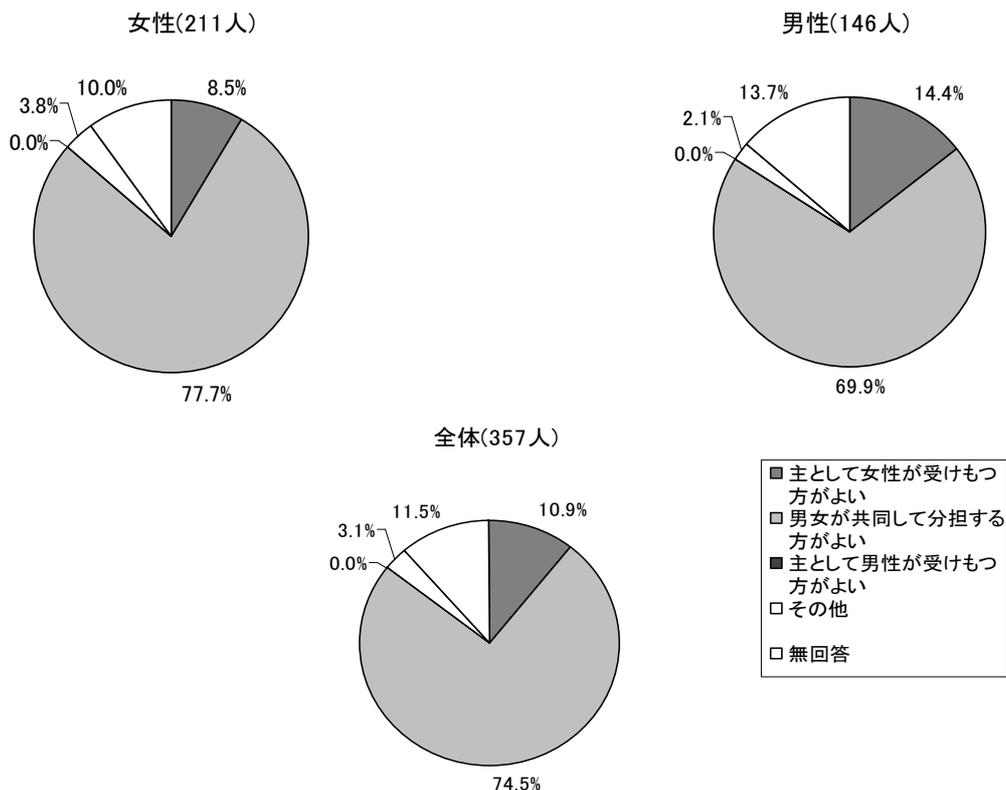
問6 「男性はもっと地域活動や、家事、育児、介護などに参加する必要がある」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思われますか。

〔傾向〕 全体では70%以上の方が「そう思う」と考えているが、女性の方が男性よりもその必要性を感じている割合が高かった。



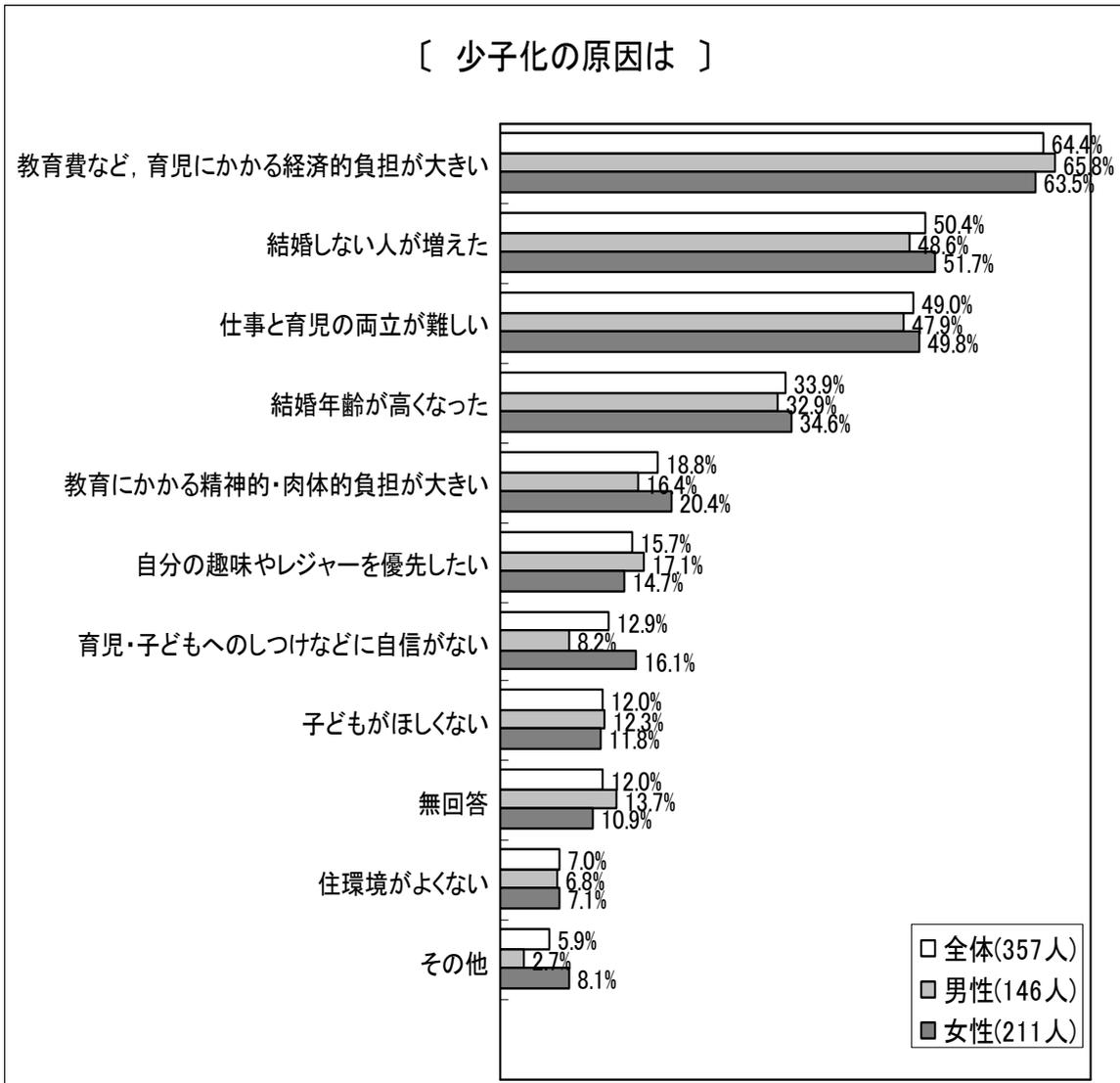
問7 あなたは、高齢者の介護をする場合に、家庭内での分担について、どのようにお考えになりますか。

〔傾向〕 「男女が共同して分担する方がよい」が全体で70%を越えて圧倒的に多い。少数ではあるが「主として女性が受けもつ方がよい」と考えている男女別の割合では、約2倍の差があった。



問8 現在少子化が進んでいますが、あなたはその原因は何だと思われますか。（複数選択）

〔傾向〕 男女共に少子化に対する考えは一致している。経済的負担の大きいことや、結婚しない人が増えたことは、自分らしい生き方の選択ができる社会ができつつあることや、ついで仕事と育児の両立の難しさなど、子育てしにくい社会環境であることがうかがえる。

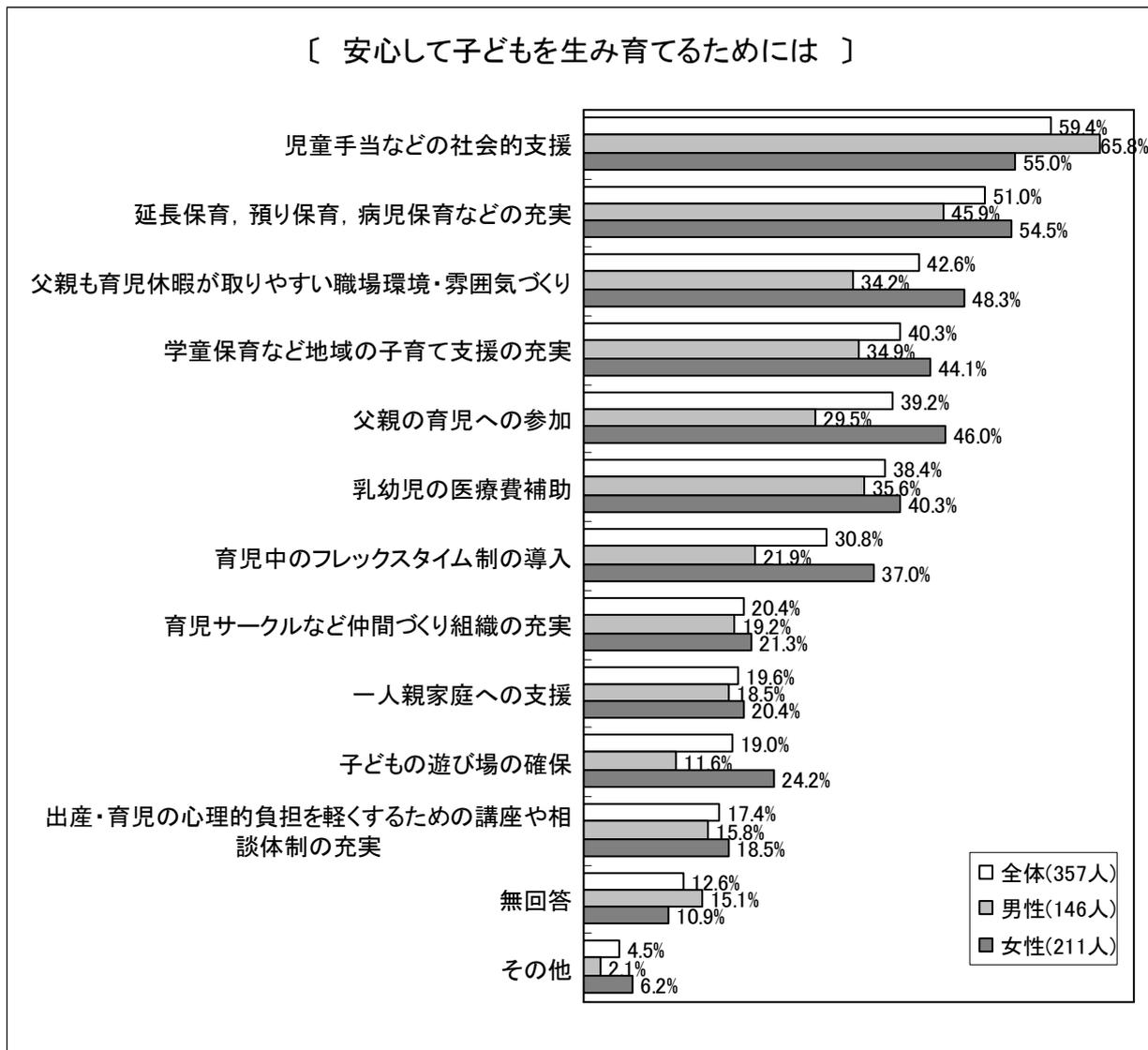


問9 安心して子供を産み育てるためには、どのようなことが必要だと思われますか。
(複数選択)

〔傾向〕 「児童手当などの社会的支援」「延長保育、預り保育、病児保育などの充実」が上位を占めている。また、この中でも男性は経済的な社会支援を一番に望み、女性は保育制度の充実を一番に望んでいる。

次いで「父親も育児休暇が取りやすい職場環境等」であるが、これを望む女性が男性より14.1%上回っている。

全体的に見ると、各項目に対する極端な差異はなく、複数の項目が満たされて初めて安心して子供を産み育てる環境が整うことがうかがえる。

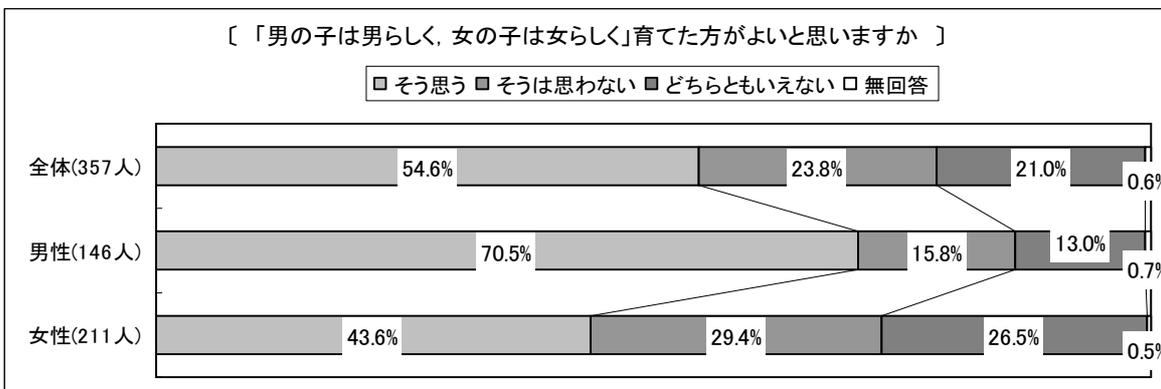


※ フレックスタイム制

自由勤務時間制。規定の労働時間を守れば、出・退社時間は従業員各自が、自由に決められる勤務体制のことです。

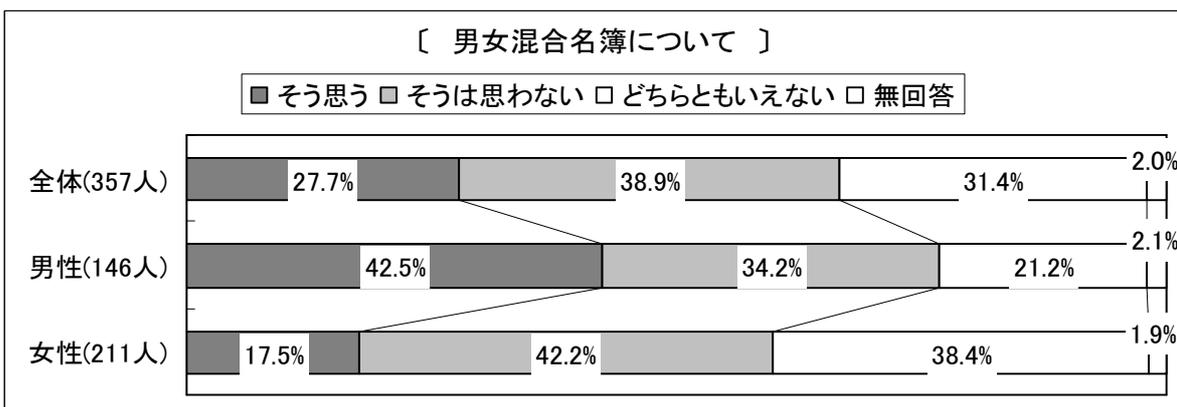
問10 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思いますか。

〔傾向〕 男性の7割が、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思ってる。



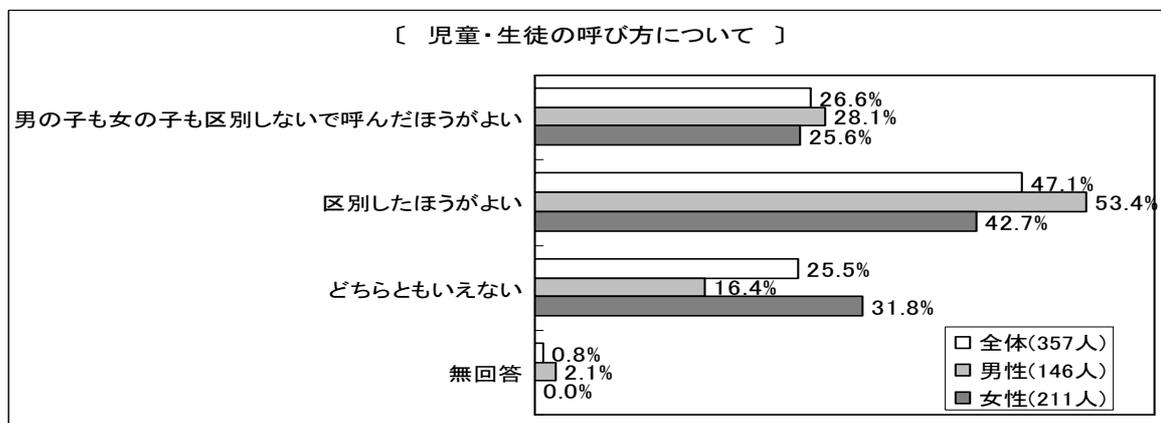
問11 児童・生徒の名簿は、男女混合名簿がよいと思いますか。

〔傾向〕 育て方とは、逆に、男性のほうが、混合名簿のほうがよいと思っている。



問12 児童・生徒を呼ぶとき、男の子は“君”，女の子は“さん”をつけて呼ぶことについてどう思いますか。

〔傾向〕 育て方と同様、区別して呼んだほうがよいと思う人が、半数近くいる。

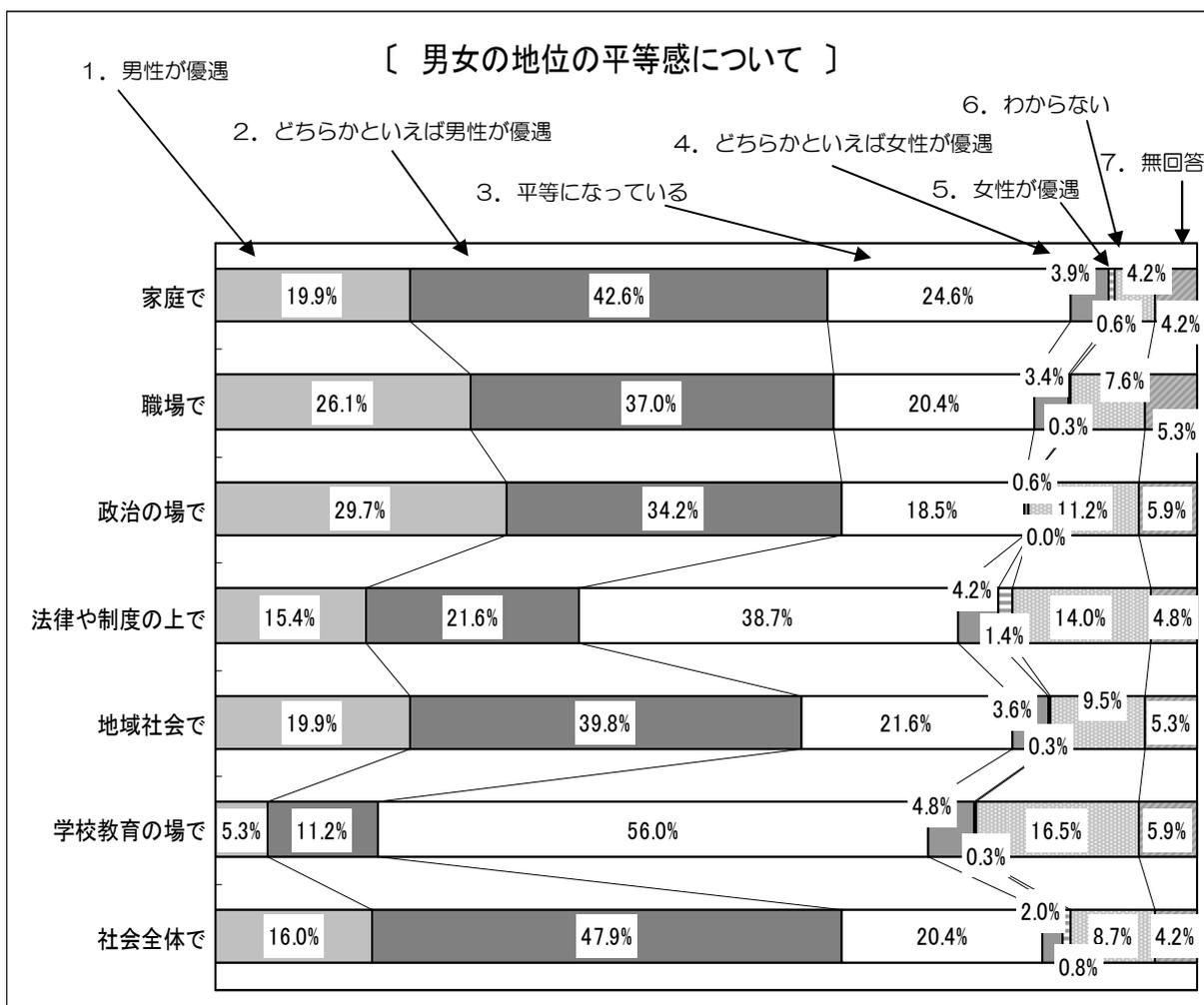


3. 『男女の地位の平等について』

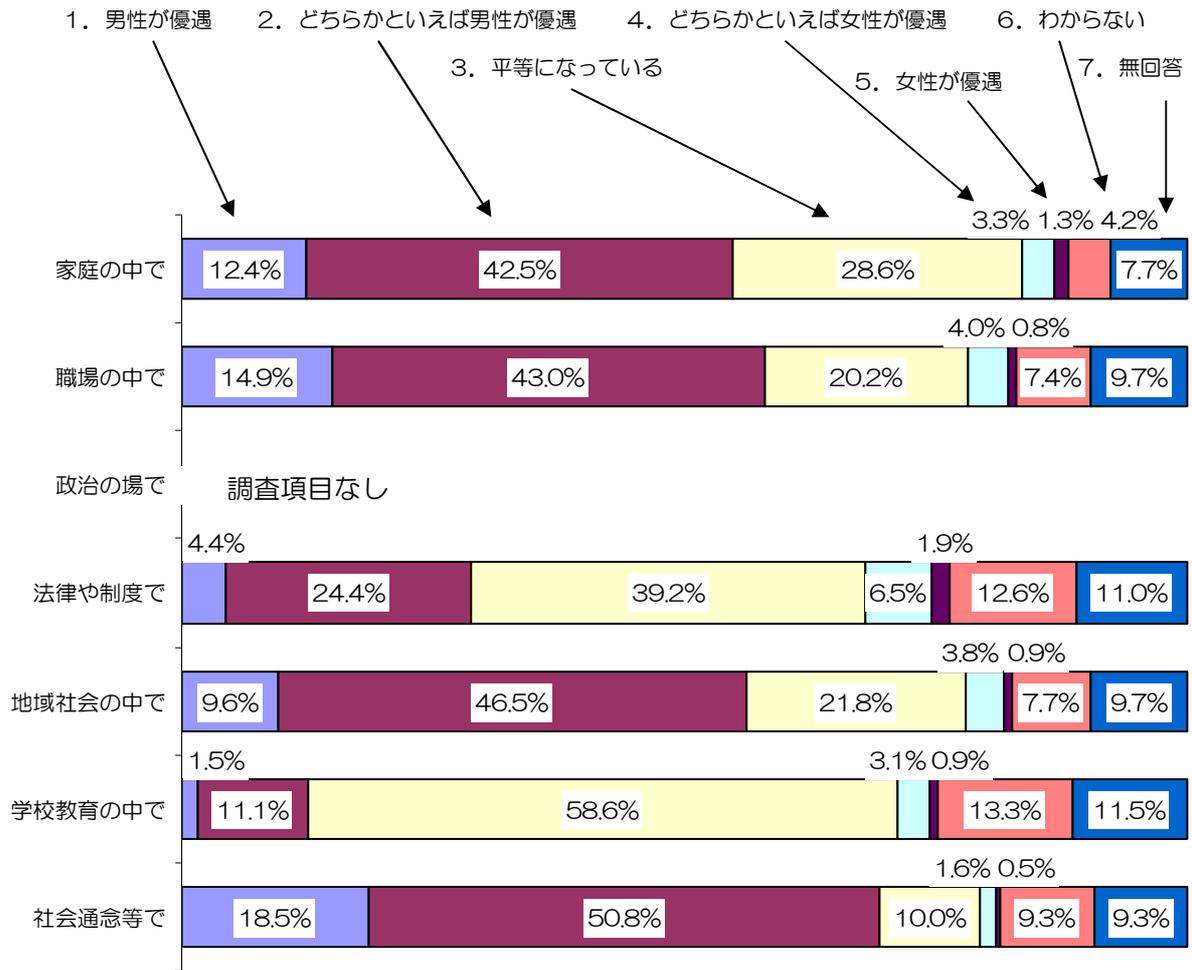
問13 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思われますか。

〔傾向〕 各分野別に見ると「学校教育の場」と「法律や制度の上で」の2項目が平等になっているとする回答割合が最も高い。しかし、残り5項目では1と2を合わせて55%以上の回答で男性が優遇されているとする割合が高かった。なかでも、「社会全体で」は合計で63.9%と最も高い割合を示した。

全体的に県の調査（P17参照）と比べても、本市では男性の優遇感が強い結果となった。

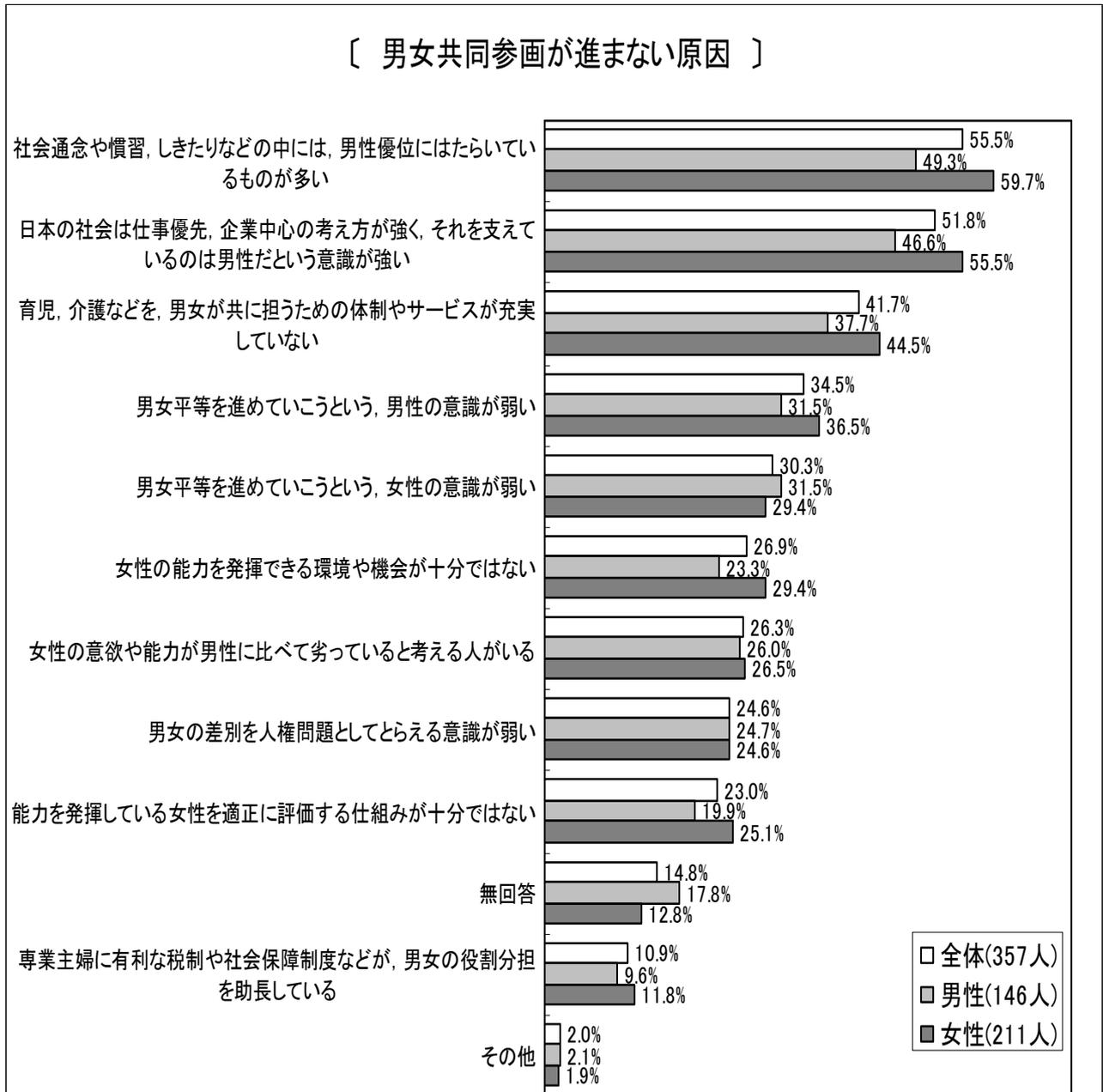


〔 鹿児島県調査（H13.7 N=1,719） 〕



問14 あなたは、男女共同参画社会が進まない原因は何だと思われますか。（複数選択）

〔傾向〕 男女ともに、固定的な役割分担意識やこれに基づく社会通念や慣行が、その阻害要因であると考えている。次いで、僅差ではあるが男性は女性の意識を問題とし、女性は男性の意識を問題としている。



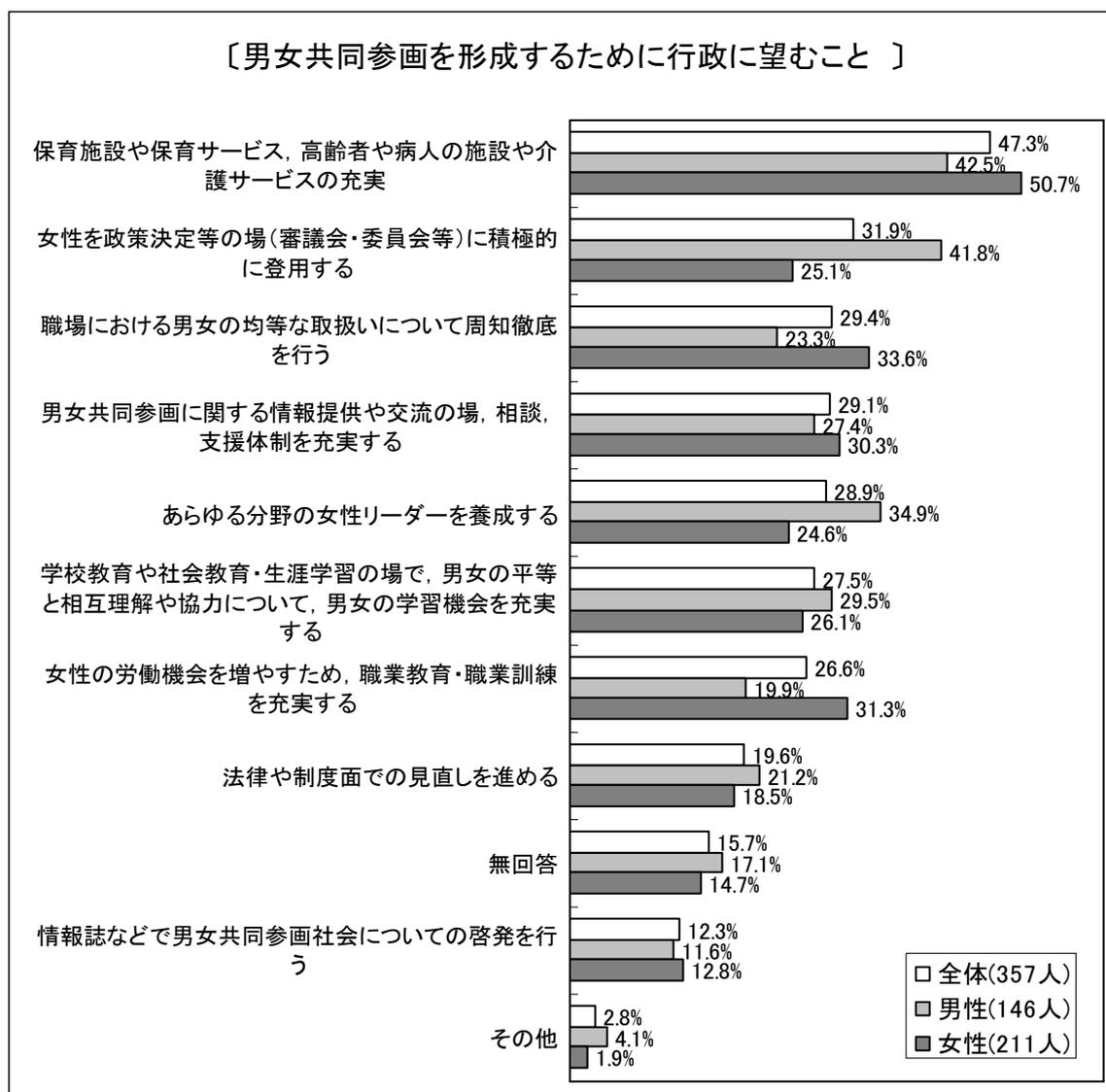
※ 男女共同参画社会とは（男女共同参画社会基本法より）

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことです。

4. 『男女共同参画社会の形成に関する意識について』

問15 男女共同参画社会を形成するために、今後薩摩川内市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（複数選択）

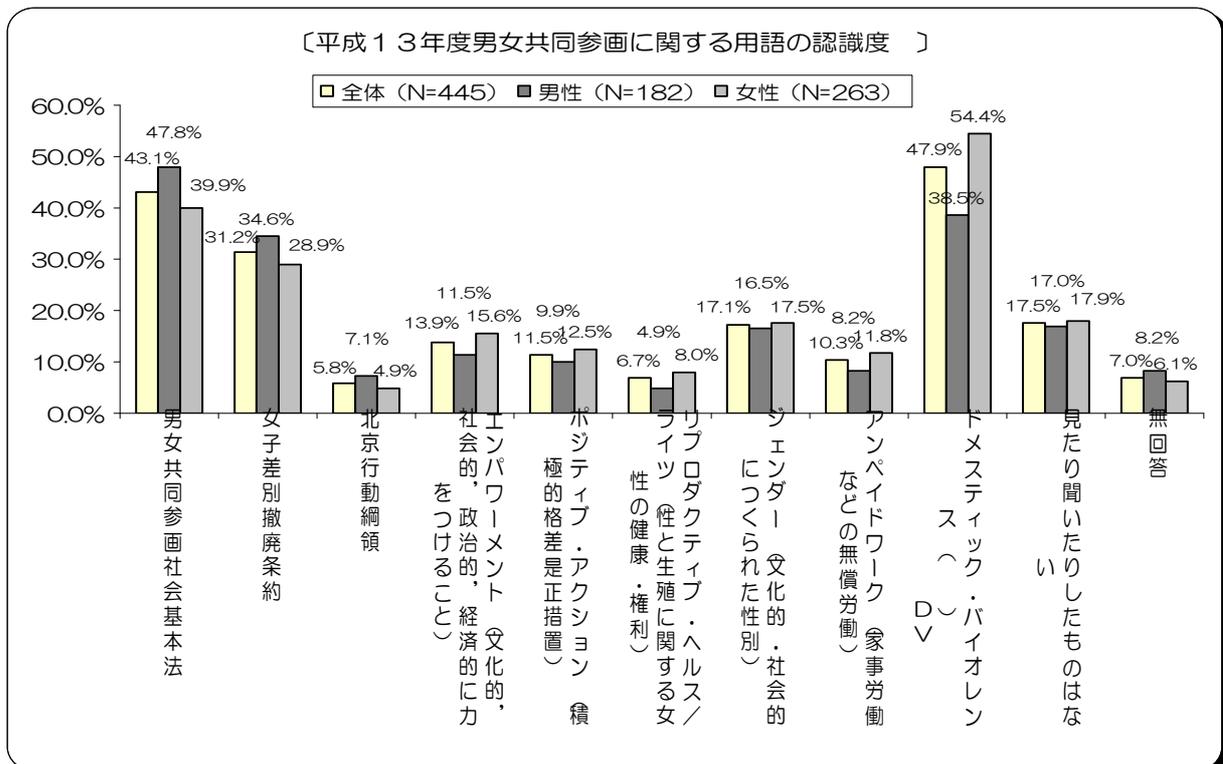
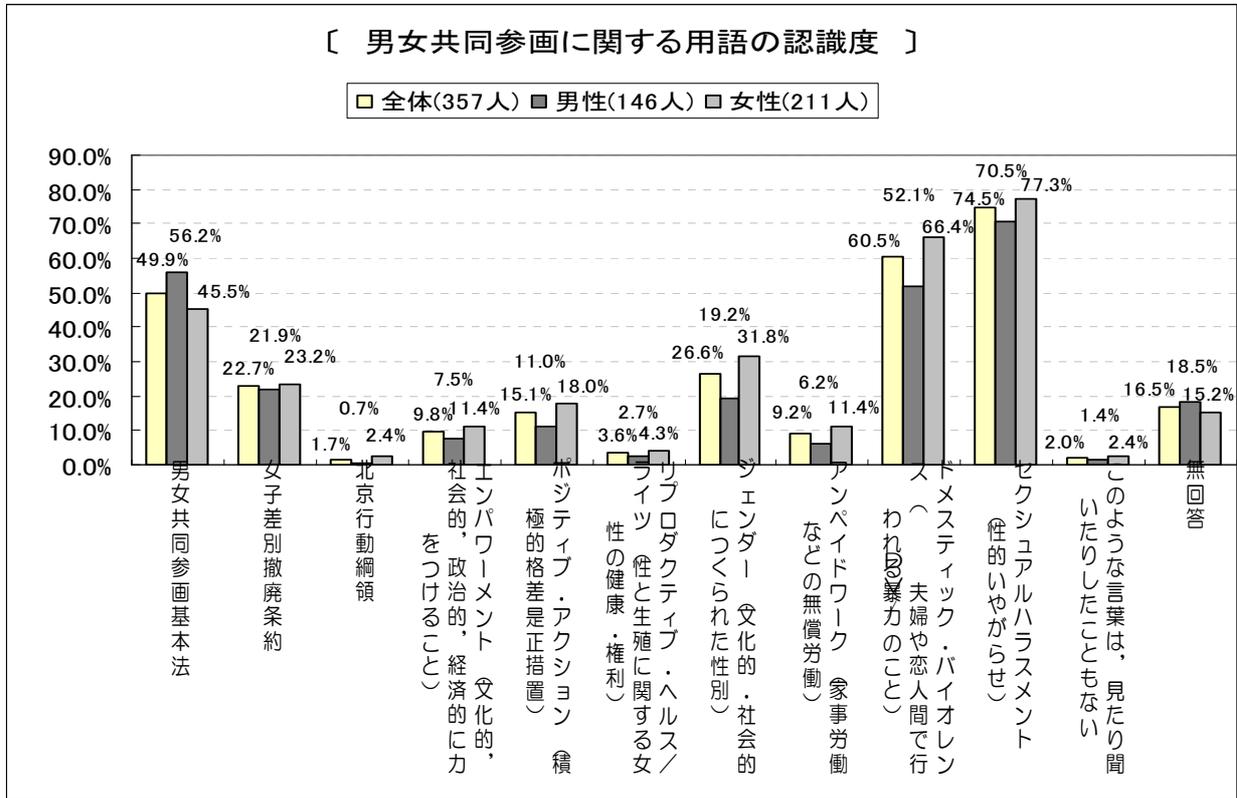
〔傾向〕 全体では「育児・介護サービスの充実」と「女性の積極的登用」が上位を占めている。これを男女別に見ると、男性は上位2項目についてはほぼ同数（約40%強）で、女性は「育児・介護サービスの充実」が50.7%と非常に高い。
また、女性の登用や、リーダーを望む男性が多いこと、女性は、女性自ら学習する機会や情報を望んでいることがうかがえる。



問16 次の用語のうち、あなたが見たり聞いたりしたのがありますか。(複数選択)

〔傾向〕 法制化されたためか「セクシュアル・ハラスメント」と「ドメスティック・バイオレンス」、「男女共同参画社会基本法」についての認識度が高い。

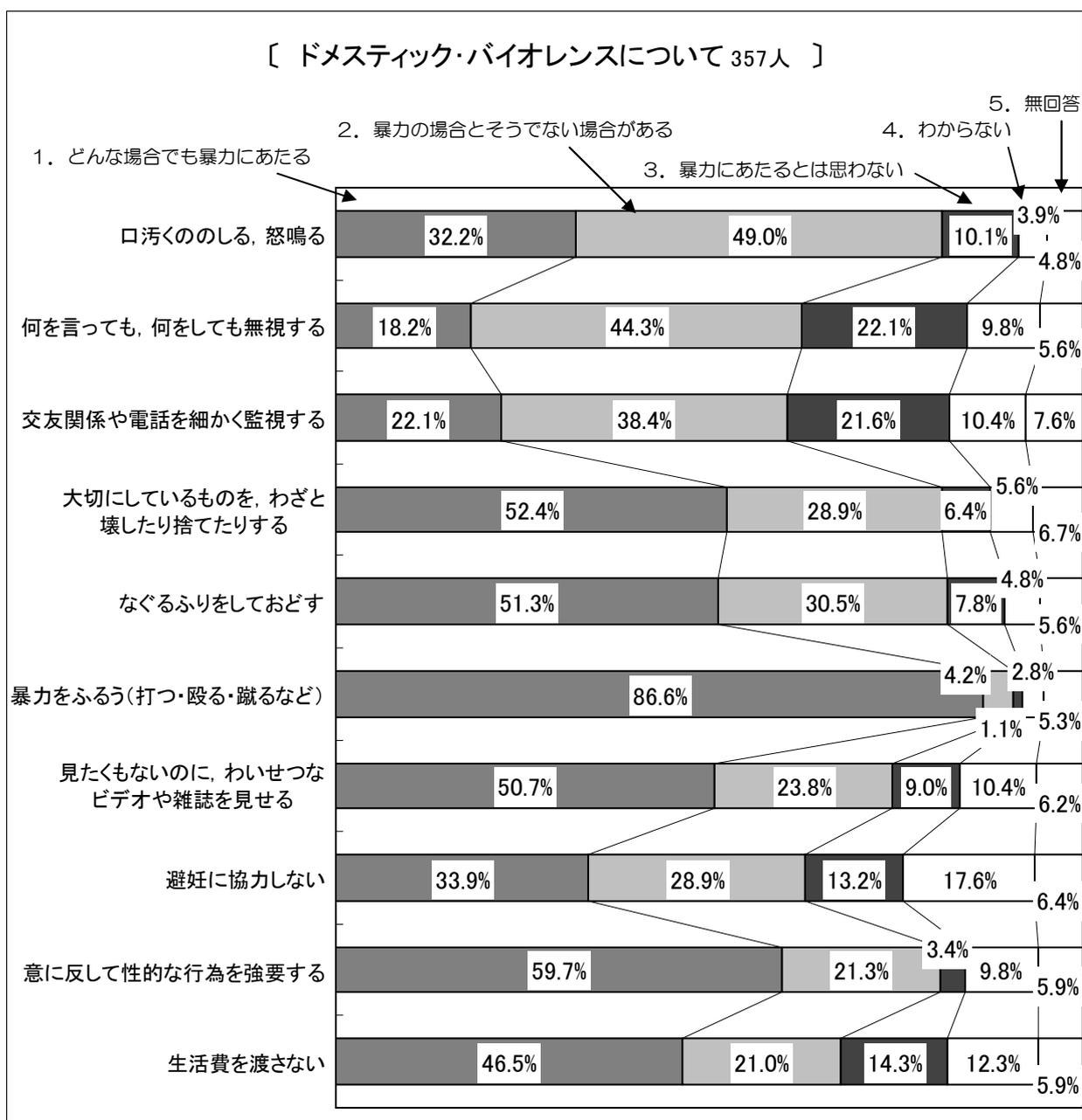
前回と比較すると、全体的に認識度のパーセントが高くはあるが、一般に男女共同参画に関する用語が使われているもの以外の用語は、かなり低い結果となった。これについてはより一層の啓発が必要である。



5. 『ドメスティックバイオレンスについて』

問17 あなたは、夫婦間または親しい間柄の男女の間で行われる、次のような行為は暴力にあたると思われますか。（複数選択）

〔傾向〕 「身体的暴力」や「性的行為の強要」はどんな場合でも暴力にあたると思っているものが多いが、それ以外の精神的暴力や性的暴力などは、暴力にあたるという認知度が低い結果となった。

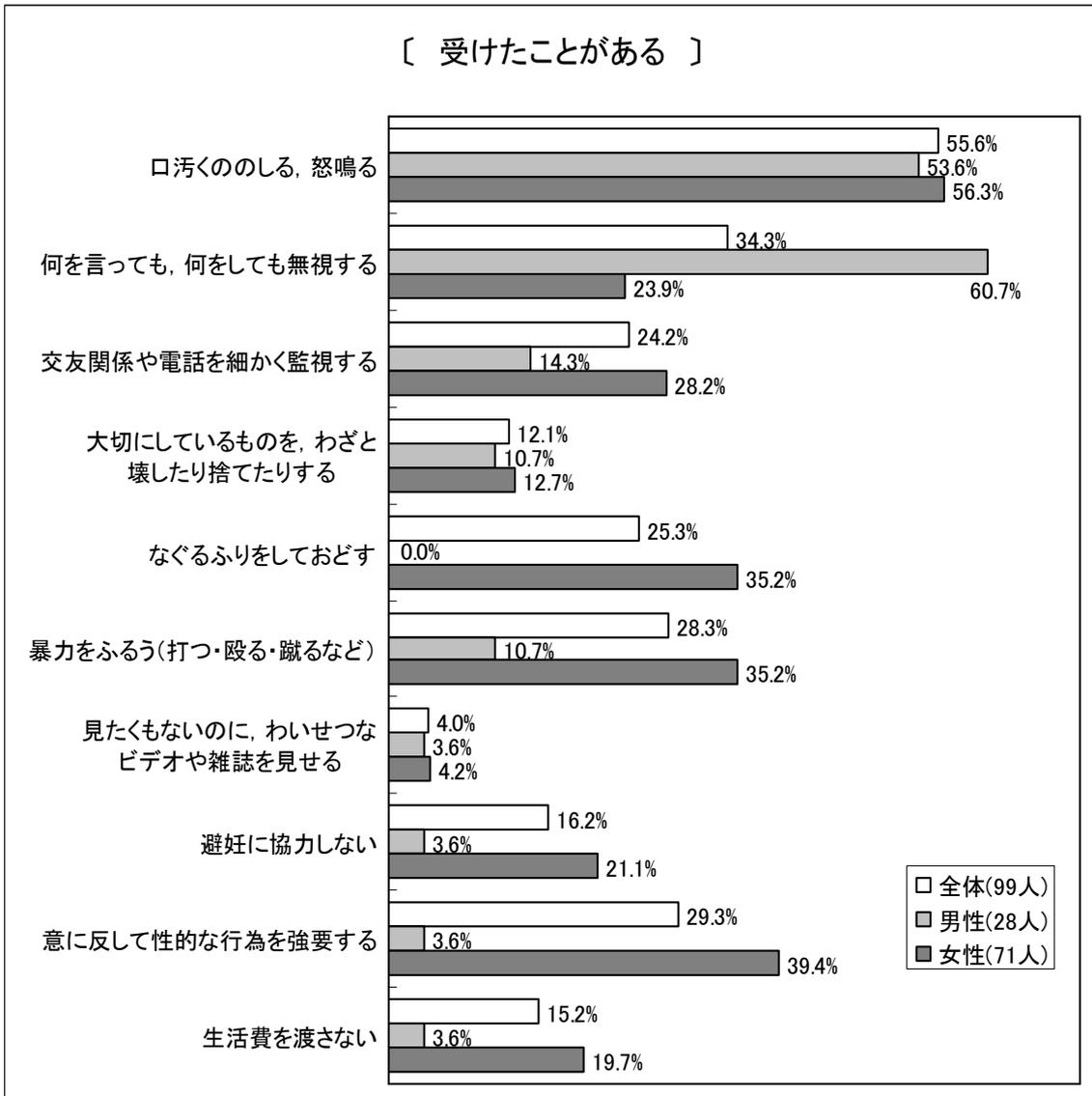


問18 あなたは、配偶者や恋人などの親密な間柄にある異性から、問17の(1)～(10)までにあげたような行為を受けたり、または自分でしたことがありますか。

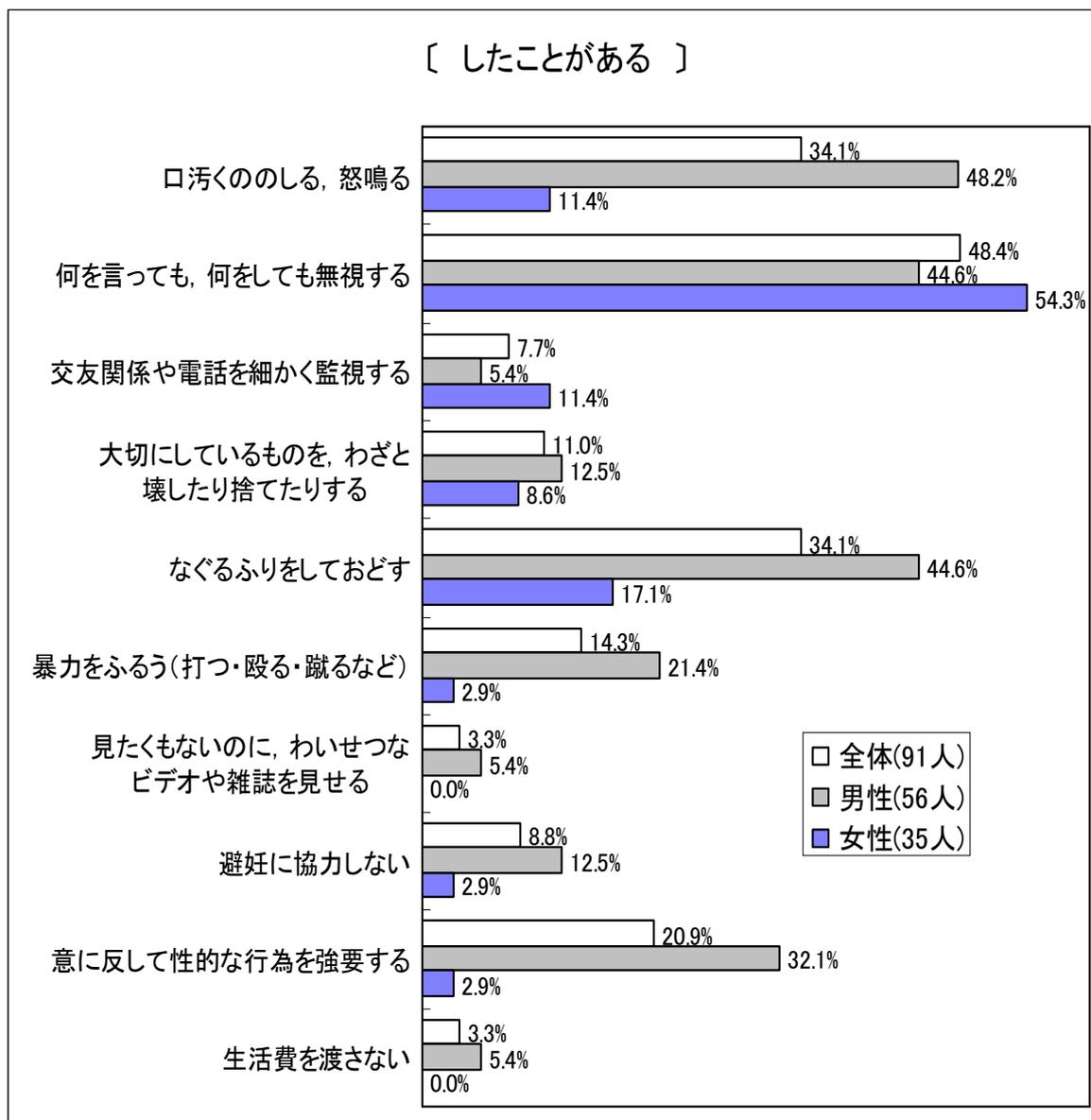
〔傾向〕 「口汚くののしる、怒鳴る」や「何を言っても、何をしても無視する」などの精神的暴力が比較的に高い割合を示した。

次に「あなたの意に反して性的な行為を強要する」の性的暴力、「暴力をふるう」の肉体的暴力・「なぐるふりをして、あなたをおどす」の精神的暴力、の順であった。

DVを受けた女性が、70%をしめている。

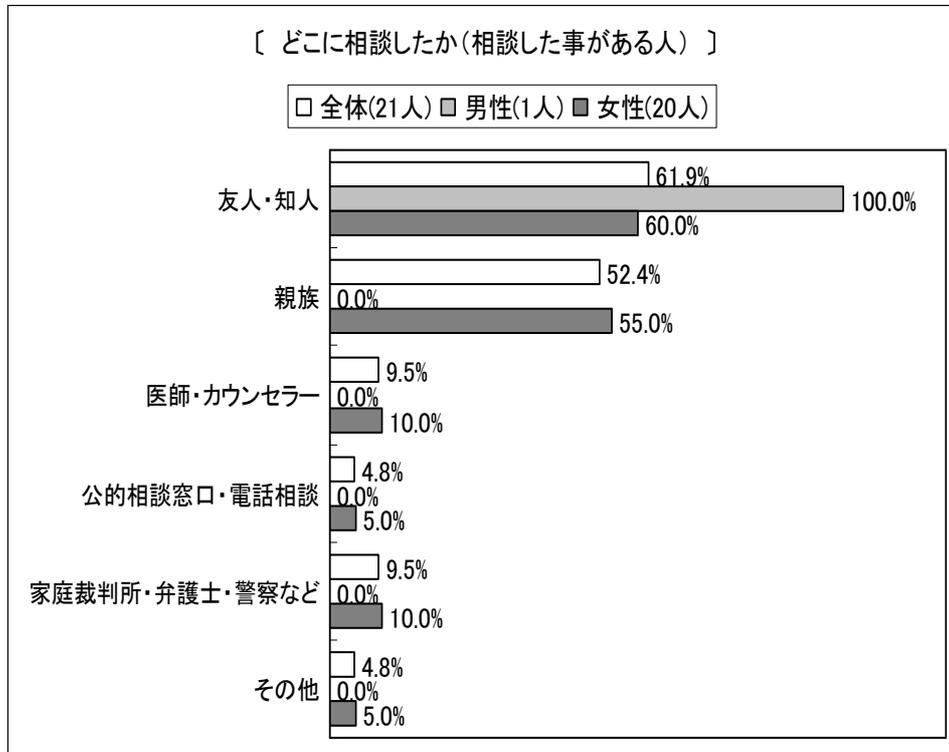


〔傾向〕 受けたことがあると同様「何を言っても、何をしても無視する」や「口汚くののしる、怒鳴る」「なぐるふりをして、あなたをおどす」などの精神的暴力が、比較的に高い割合を示した。次いで「意に反して性的な行為を強要する」、「暴力をふるう」の身体的暴力の順であった。

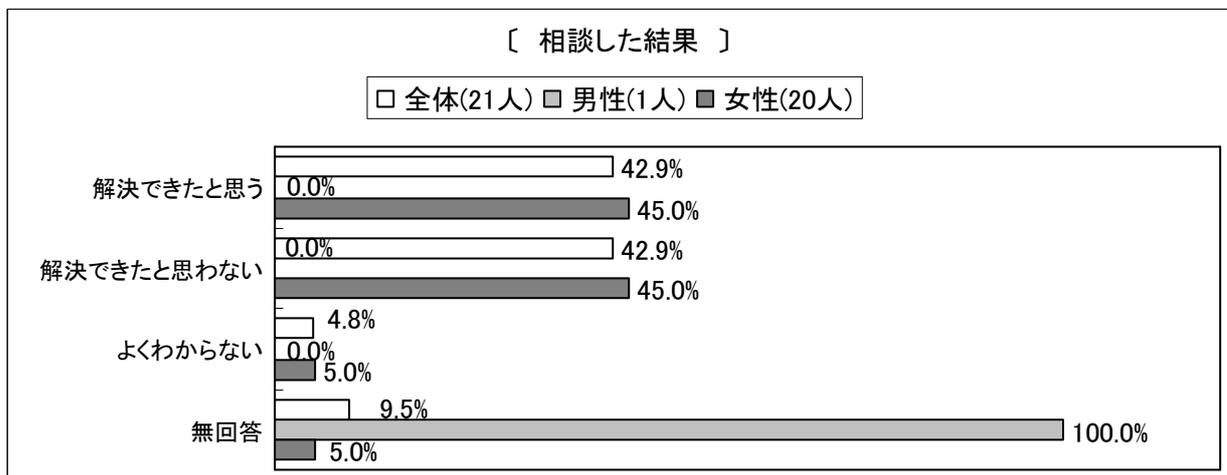


問19 問18の「受けたことがある」(①から⑩)のいずれかに○印をされた方にお尋ねします。あなたは、その行為を受けたことで誰かに相談したことがありますか。(複数回答)

〔傾向〕 「暴力」を受けているということを、他に相談しても解決するまでにはなかなか至らず、医師・カウンセラー、公的窓口等の利用者は少数という結果であった。DVは潜在化する傾向が強いといわれているが、本市においても例外ではなかった。

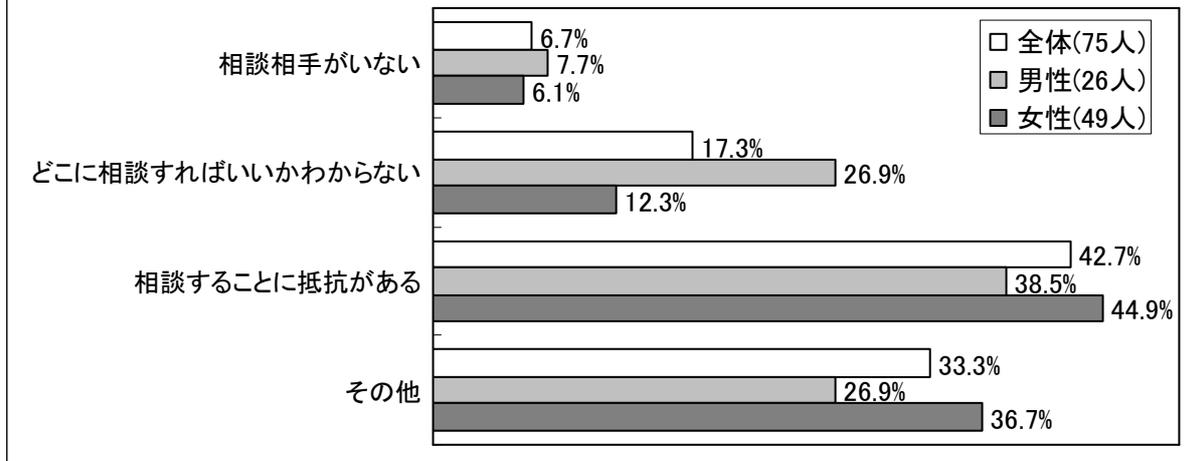


※ 男女共に、友人・知人、親族に相談したとの回答が60%を越えている。



※ 女性は相談したことで解決したと思っているものが約半数で、それだけでは解決できなかったものも半数であり、男性が1人しかいないことから、特に女性の方が問題を抱えている現状が浮き彫りとなった。

〔 DV被害にあったときに相談しない理由 〕



※ 「相談することに抵抗がある」が最も多かった。

※ ドメスティック・バイオレンス (DV) とは

配偶者や恋人など、親密な関係にある異性からふるわれる暴力のことを言います。親密な関係には、結婚している夫婦だけでなく、同棲相手や婚約者、付き合っている異性、別れた配偶者や恋人なども含まれます。

配偶者等からの暴力は、重大な人権侵害であり、男女共同参画社会を形成するうえで克服すべき重要な課題です。

※ DV防止法とは

配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）を防止し、被害者を保護するために「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：DV防止法）が平成13年10月13日から施行されました。

これは、夫婦ばかりではなく、事実婚状態にある方や、もと配偶者などから暴力を受けている方も救済の対象となります。裁判所に申し立てをすると、加害者に6ヶ月の接近禁止や、2週間の住宅退去を命じることができ、これに違反すると1年以下の懲役または100万円以下の罰金が科せられます。

Ⅲ. 参考資料

1. その他意見（抜粋）

問2 女性が職業をもつことについて

- ・3, 4才までは仕事はせず子育てその後から仕事をする。
- ・あえて女性が職業を持つ事についての質問なので、女性が職業を持つ事だけの視点から考えるなら、一人一人の女性のプライベートの問題であり、又は社会的な問題(例えばその方がいろいろ社会的にも影響のある仕事をしている場合など)であり、良いか悪いかという考えをする方が間違っていると思う。
- ・その家、子どもの状態に合わせて続ける。
- ・その家庭による。
- ・その時の状況で判断。
- ・育児休暇等利用し働き続けられた方が良い。
- ・各々その時々によって違ってその時考える。
- ・基本的に女性が職業を持つ事は良い事だと思うが、未婚か既婚か、子どもがいるかいないかで考えは変わる。今の私自身での理想は④(核家族なので)。ただし、就職先の事業所の環境(産休、育児etcの社会制度、更には託児、学童保育まで)が充実していれば結婚や出産を機に女性が辞めずにすむと思う。
- ・経済的な面で余裕があれば良いが、そうでない場合もある。産休等を利用しなくてはならない時もある。
- ・経済的に余裕があれば職業を持たなくてもいいとは思いますが、職業持つ事が生きがいであればやってもいいと思う。
- ・結婚・出産・子育てと仕事が両立できる事が理想。
- ・個々の判断、夫婦の判断、その時の状況による。
- ・仕事もですが今は病気の為、健康な体でいてほしい
- ・子どもとできるだけ一緒の時間を大切に、確保できるのであれば、仕事をしていてもいいと思うが、子供のことが次になるようなら、しないほうが良い。経済的に苦しいなら仕方ない。
- ・子どもの面倒を見てくれる人がいたら続けた方がいいと思う。
- ・自分が良いと考え、それなりに社会に役立つ仕事をなすことが出来ればそれでよい。
- ・自分に合った仕事なら、できるだけ続けたほうがよい。
- ・自分の好意、能力でいいと思う。老人や子どもをそまつにせず夫婦お互い話合いで。
- ・出産後も仕事が継続できる社会基盤の整備が必要(職場の体制づくり等)。
- ・女性が個々に処置すべきこと。
- ・女性その人自身の考え方だと思う。
- ・女性は公務員か一部の会社でしか休職して、又、同じ職場に戻れるということは難しいと思います。何とかならないでしょうか。
- ・職業だけがすべてではない。家事の大切さ、育児をし子供を育てること、家庭生活を支えることも社会参画の大切な要素であることを女子自身が誇りをもつことが大切である。
- ・職業を持たない人は持てばよい。持ちたくない人は持たなければよい。

・色々あっていいと思う。
・人それぞれ。
・相手(女性)の意見を尊重したい。
・男女性関係なく, その人がしたいのであればすればいい。
・働ける状況(経済的な事や, 子どものことなど)によって変わってくると思うが出来る限り働きたいと思う。
・本人に任せた方が良くと思います。
・本人の意思が大事だと思う。
・本人の意思にまかせる。
・本人の自由意志だと思う。
・理想的にはNO4ですが再び職をさがすのも大変です。
・両立できればいいのでは。

問3 女性が職業を持ちつづけることを困難にしたり障害となる理由
・「男は仕事, 女は家庭」という, 考え方の根深さ。
・その人が困難や障害を感じたとき。
・家族の理解と一身同体であること。
・気軽に子供を預けられる場所が少ない(職場に託児所の付いている所等)。
・子供の行事で休みがとりづらい職場環境。
・社会環境。
・周囲の理解が必要(集落, 校区コミュニティ)。
・女性の社会参画に人や社会が協力的でないと思う気持ち。
・女性自身の甘え。
・夫の協力(家事), 女性の負担が多い。

問5 政策・方針決定過程へ女性の参画が少ない理由

- ・あまり押し押せの共同参画はおかしい。何で必死にしているのか。
- ・これまでの社会において女性の参画が少なかったから。
- ・そこまでそのような場に出たいと思っている人は、一部の人だけだと思う。だから、一般の人が女性の社会進出をすごく重大に考えることは少ない気がする。
- ・高年齢の男性の意識不足。
- ・仕事は腰掛け的意味合い持つ者多い。
- ・社会の支援が得られない。
- ・女性が女性に対して批判的であり、能力を認め育てていこうとする意識が乏しい。
- ・女性の配慮, 優しさ, 気配り。
- ・女性自身の甘え, 女性に対する甘さが社会(男性)にある。
- ・審議会等への起用がたりない。
- ・男女でなく人として考えればいい。
- ・地方, 特に田舎の方には能力不足。
- ・問1, 2で答えたが女性は仕事を持たないほうがよいと考える人が多いからだと思う。

問7 高齢者介護の分担について

- ・その高齢者を親に持つほう。
- ・みれる人がみればよい。
- ・家に長時間いる方が多く介護するでしょうが, どちら(夫か妻)の親族かによって分担の割合も変わるはず, と思います。
- ・家族で協力して分担し, 無理があるなら介護サービスを利用する。
- ・家族全員の僅かなる心配りが欲しい。
- ・各家庭それぞれの事情であるので, 一概してどうとはいえない。
- ・出来るほうがやれば良いと思う。お互いに「介護って大事だね」という思いを共感し協力することが大事。
- ・専業主婦, 共働きなど家庭の事情により①であったり②であったりで, 奥さんに仕事があり夫が無職の場合などは③。
- ・誰の介護を必要としているか。
- ・男の人は昼などほとんど仕事をしていると思うので, その間は女性が, そして力仕事など, 女性では困難なことは手伝ってもらえたらいい。
- ・男女に限らず血縁関係にある方が主として(積極的に), 受け持つのが望ましい。(もちろん配偶者, その家族も協力する)

問8 少子化が進んでいる原因

- ・家庭の中で、成人の意識の中で、育児への喜びや楽しさを味わえる雰囲気づくり。(家庭生活のアピール)
- ・核家族が進み、育児に対する精神的・肉体的負担が女性にかかってくるため。生活が苦しいため。収入が少ないため。不況。
- ・核家族化や地域全体による育て力の低下などにより、子育てする事が難しい。
- ・金銭的な負担が大きい。
- ・仕事優先で子どもは欲しいけど、その環境でない。
- ・子どもを生み育てやすい社会制度でないから。
- ・子供ができない。
- ・子供が欲しいのに恵まれず不妊治療に通っている人が大勢います。治療費が高額の為、諦める人も多くいると思います。それに対して市としても補助金があればいいと思う。
- ・時代の流れ。
- ・自己中心的な考え方(他人の立場になって考えられる大人になりきれない)の人がふえてきており、子どもは自分の自由を奪う存在と捉えている人が多いため、子育てを共に楽しむ(苦楽含めて)姿勢、構えがあまりない。
- ・周りに一緒に遊ぶ子どもの面倒を見る人がいない。差別が多い。子どもが子どもを産むような感じがする。
- ・女は出産によって仕事面でマイナスになる。
- ・女性が家庭より仕事優先する人が増えている。
- ・女性が仕事をするため。
- ・職場環境から来る不妊症。
- ・食堂、コンビニにより食事に困らない。娯楽が多く、寂しさがまぎれる。不妊症が10人に1人いると聞いた。欲しくてもできない人がいっぱいいる。
- ・川内の平均賃金が低い。最低給与。
- ・日本の将来に不安感をもっているのではないか。
- ・認可保育所の不足。子供を産んだら辞めなければいけないという会社の雰囲気と、子供の事で自由に休んだりできないなど。
- ・不妊治療に対する理解が乏しくまた治療費も高い。子どもが欲しい人、欲しくてもなかなか出来ない人は沢山いると思う。
- ・平和ボケして自分の事だけを考えている人間が増えたから。今後の日本のあり方を考えると自分の大切な子どもを生む気にならない。

問9 安心して子どもを産み育てるための対策・支援について

・すぐに行きやすい公園など小さくていいので、たくさんつくってほしい。

・以前あった、日本の伝統的な家族の結びつきの強い社会を再現するか、それに係る社会を構築する必要がある。

・核家族にしない。育児中は働かないこと。

・喜入地区に住んでいますが、古い住宅地のせいか学校以外の広い公園はありません。車で行かないといけない、遊び場ばかりです。

・公務員だけが良い条件ではおかしい。

・行政的な施策はいろいろ考えられると思うが、女性自身が結婚への喜び、育児への喜びが感じられる。それには、教育、あるいは社会の中で家庭を持つ事、育児の大切さをアピールしていくことが大切なのは。

・子ども、若い親と古老との会話。

・子どもをきちんと育てあげるための親の教育の充実。その為に、小・中・高の教育の在り方を見直す姿勢。

・支援はいいけど悪用する人が多い(特に母子家庭)。多くの母子家庭を見ていますが、支援がある為に離婚や、働かない人がいる。

・女性就労者の家庭生活での負担が大きすぎる。

・男女問わず労働条件の見直し全般。

・当事者(育児中の)たちの周囲にいる人々への教育(子育ての先輩として何をどうしたらいいか)、情報提供を社会教育の中で実施し、その人たちの力が発揮されるような組織を作る。(シルバー人材センターの育児協力版のようなもの)

・不審者対策。

・父親の育児休暇を一般企業でやったら、くびか、辞めるように仕向けられる。子供の遊び場が高齢者のゲートボール場などになり、子供がそこで遊ぶと怒られる。

・父親の仕事が減少しています。今後も減少し製造業とか力の必要な仕事は国外に、フリーターで結婚出来ないようになりコンピューター、インターネット時代となり子どもは生めない。

問14 男女共同参画社会が進まない原因

- ・これまであった良い伝統まで失われると恐れている。
- ・そこまで社会の中で、特に若い人の中で、このことに関して真剣に考えたり、このことの重要性などはわからないから関心がうすいのだと思う。
- ・差別と考える事がおかしい。互いの立場で社会を支えているという考えを持つ事が正しいのでは。職業につくことだけが、本当の平等だろうか？家事労働への価値評価、育児への価値評価が低いのでは。育児は未来の社会を築く子供を育てる大切な仕事である。
- ・女性に男女平等というより、社会へ出て行こうとする積極性が少ない。
- ・女性を武器にして甘える。仕事への意識の甘さ。
- ・男女共同参画社会も求める意見が多くないのではないか。
- ・日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強すぎて、社会全体で子育ての環境に適さなくなってしまう。

問15 男女共同参画社会の実現のために、薩摩川内市に望むこと

- ・いろんな事において男女の均等な取扱いを目指していると思うが、その均等の基準を見直すべき。(現在は男性を基準にしているように思える)
- ・オール女性について考えて欲しい。どうも有能な女性、特殊な女性とされてられます。
- ・よくわからない。
- ・基本的に女性は家庭を守るべき。
- ・共同参画社会だから...で登用されるのは女性として不本意。男女関係なく能力で決めて欲しい。その能力やアイデアを発表できる場を平等に与えるべき。
- ・自然の成り行きにまかせ、あまり積極的に推進しない方がよい。
- ・自分ではそこまで男女の差別など感じたことがないので、わからない。
- ・女性の方はソフトに相談、その他心なごむ。
- ・男女共同参画の賛否両論、よし悪し、長所短所などのすべての情報を開示し、情報格差をなくしていく活動をして欲しい。
- ・本当の意味での男女の平等をふまえ(例えば力仕事に女性は生理的限界があるので、無理！)川内市なりの男女共同参画のチームを作る。

問22 暴力などを受けたときに、相談しなかった理由

- ・あまりない事だから。
- ・しばらくしたら解決したから。
- ・自己解決。
- ・自分でなんとかしようとする。
- ・自分で解決、判断すべきことだと思うから。
- ・自分で解決できる範囲。
- ・自分で理解できる程度のことだから。
- ・周りの人に心配をかけたくない。
- ・心配ないと思った。
- ・相手が本気でいった訳でないから。
- ・相手を怒らせたかが、当たり前だし。
- ・相談しても仕方ないと思う。
- ・相談しなくてよい。
- ・相談するほどでもなかった。
- ・相談するほどの事でないと判断。
- ・相談するほど深刻でなかったから。
- ・相談する事でもない。
- ・相談する程の事でない。
- ・相談する程度のものではない。
- ・日常的でない為、相談をするまでではない。
- ・夫婦で解決。